



育ちゆく

花実の森

④



春へ…里山作業は続く

つい先日まで、枝々に“こがね色”に変身させた葉で飾り付けをしていた里山の木々も、今はすっかり葉を落とし、冬の姿で眠りについています。ここを棲み家とする多様ないきものたちも、あるものは地中で、あるものは落ち葉をふとんに、またあるものは繭にくるまって越冬態勢にはいりました。しばらくは静かな里山の世界となります。

この間、里山整備プロジェクトの作業は、枯葉の落ち葉をどんどん集め、サンタクロースの袋のように詰めておき、やがて来る春には、子どもたちに楽しみ・学んでもらう『自然環境体験学習』

の教材に使います。また、間伐した木々の小枝をチップ化し、カブトムシの寝床づくりや、草花を育てる堆肥づくりの準備を始めるのもこのころからです。いろいろ夢膨らませ、里山のぬくもりを感じながらの活動が今日もつづきます。（花実の森プロジェクト 菅田 忠志）

＝写真＝教材用に落ち葉を集めて袋詰に



神戸の未来を担う子ども育て賞

学習支援委員会が受賞

学習支援委員会（加藤勇治委員長）が神戸市教育委員会の「神戸の未来を担う子ども育て賞」を受賞し、12月13日、総合教育センターで表彰式が行われました。学習支援委員会が平成17年から神戸市内の小学校約50校で展開している学習支援・特別支援活動が評価されたものです。

表彰式には西田理事長と加藤委員長が出席。他の受賞13団体と共に、神戸市長から表彰状と副賞の楯を受け取りました。同賞は、神戸っ子の育成に尽くした活動を顕彰するもので、平成17年に制定。受賞するのはグループ〈わ〉でも初めてのことです。

加藤委員長は「私たち支援委員の地道な努力が認められてうれしい」と話しています。

ト音記号と増金さんに感謝状



施設や地域で長年にわたって奉仕活動が続けてきたト音記号（千原美哉子代表）と増金スミ子さん

グループ〈わ〉に愛の輪賞

思いやりや助け合いの心を育む「愛の輪運動」への貢献が認められ、グループ〈わ〉に24年度「愛の輪賞」が贈られることになり12月24日、市総合児童センター（中央区）で表彰式が行われました。同賞は平成2年、ふれあいのまちKOBE・愛の輪運動推進委員会によって制定されたもので、表彰式には西田理事長が出席しました。

この日は、「愛の輪ふれあいコンサート」も開催され、〈わ〉傘下のSCハワイアンズと一寸奉仕が賛助出演。手話シンガーの渡辺りえこや「コウベリーズ」に混じって見事な演技を披露しました。

（福11）に、神戸市社会福祉協議会から24年度の感謝状が贈られました。ト音記号グループは平成18年に結成され会員は7人。北区にあるハーモニアスなどを訪問し、入所者の話し相手になったり、手品を披露したり、一緒に歌ったりしています。「しんどいこともあるが、できる限り活動はつづけたい」ということです。

増金さんは地域のお年寄りのために「アットホームますかね」というふれあい喫茶を始めて7年。自宅を開放し、月2回、メンバー8人が交代で世話をしています。毎回、5～10人の参加者があり、昼食を共にしながら大道芸を披露したり、おしゃべりを楽しんだりしています。＝写真はト音記号の活動風景